

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

6月12日から13日にかけて現地調査を実施し、62-2火口内の地熱域の拡大と温度上昇を確認しました。
火口周辺は火山ガスの濃度が高い可能性があります。火口周辺には近づかないでください。
<噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続>

○今回の活動概況（図1～図6）

12日から13日かけて実施した現地調査では、昨年と比較して62-2火口内の地熱域の拡大や火口温度の明瞭な上昇（約400℃；2019年6月；約200℃）を確認しました。

7日から15日未明にかけて62-2火口付近が明るく見える現象を時々観測しています。この現象は、高感度の監視カメラによってのみ確認できる程度の微弱なもので、高温のガス噴出や硫黄の燃焼等によるものと考えられます。

火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データには特段の変化はありません。また、他の火口からの噴煙の状況にも変化はありません。

○活動評価

62-2火口では今回と同様に、1998年頃から2000年頃にかけて火口温度が上昇し、火口付近が明るく見える現象が観測されています。また、2004年2月や4月にごく小規模な噴火が発生するなど、火山活動の高まりがみられました。

十勝岳では、火山体浅部における活動の活発化を示唆する現象が引き続き観測されており、火口内に影響する程度の突発的な噴出現象等が発生する可能性がありますので、火山活動の推移には注意が必要です。

この火山活動解説資料は、札幌管区气象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。



図1 十勝岳 火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）

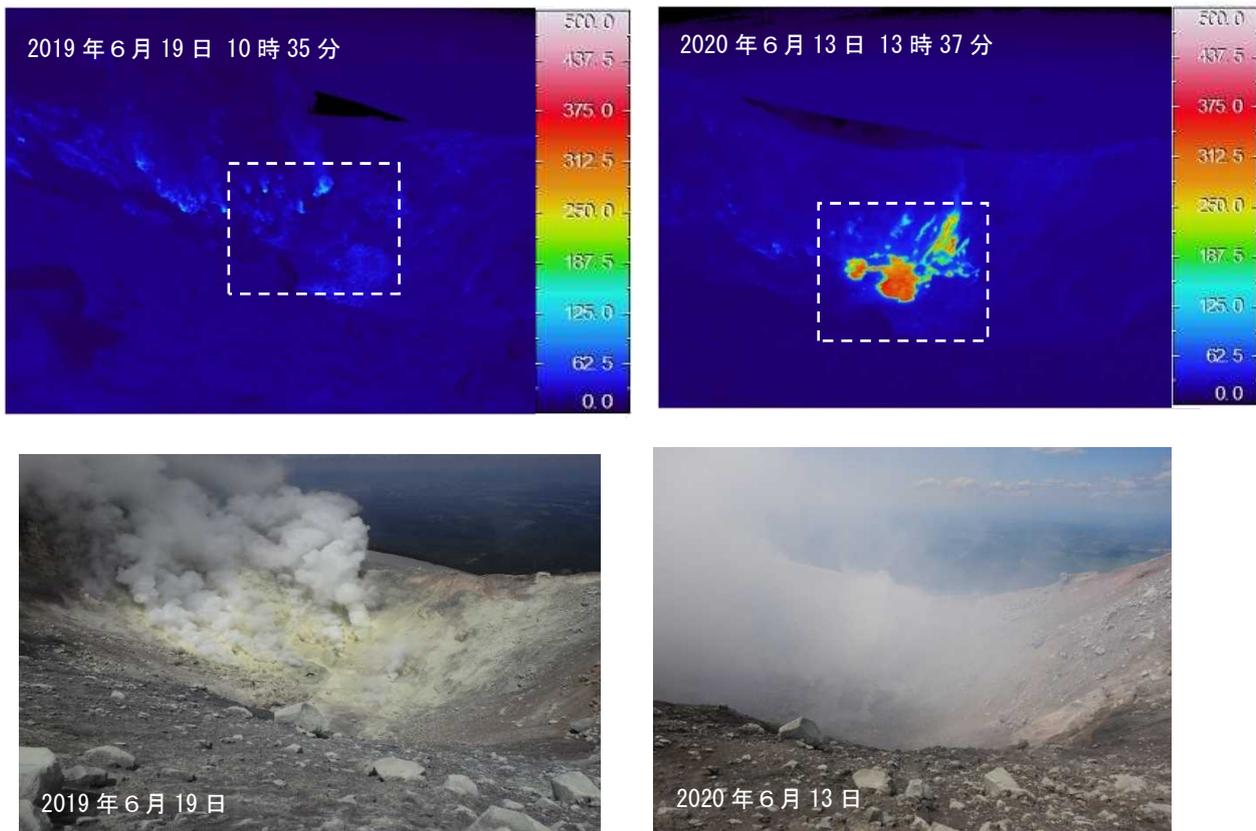


図2 十勝岳 赤外熱映像装置による62-2火口内の地表面温度分布
62-2火口の南東側（図1の赤矢印）から撮影
白破線内の最高温度は約400℃で、高温の領域の拡大がみられました。



図3 十勝岳 監視カメラの位置図及び撮影方向（矢印）



図4 十勝岳 6月7日以降の62-2火口付近の状況
白金模範牧場（図3参照）より高感度の監視カメラで撮影
①6月9日、②6月10日、③6月12日、④6月13日
白破線内は、62-2火口が明るく見える現象を示す。

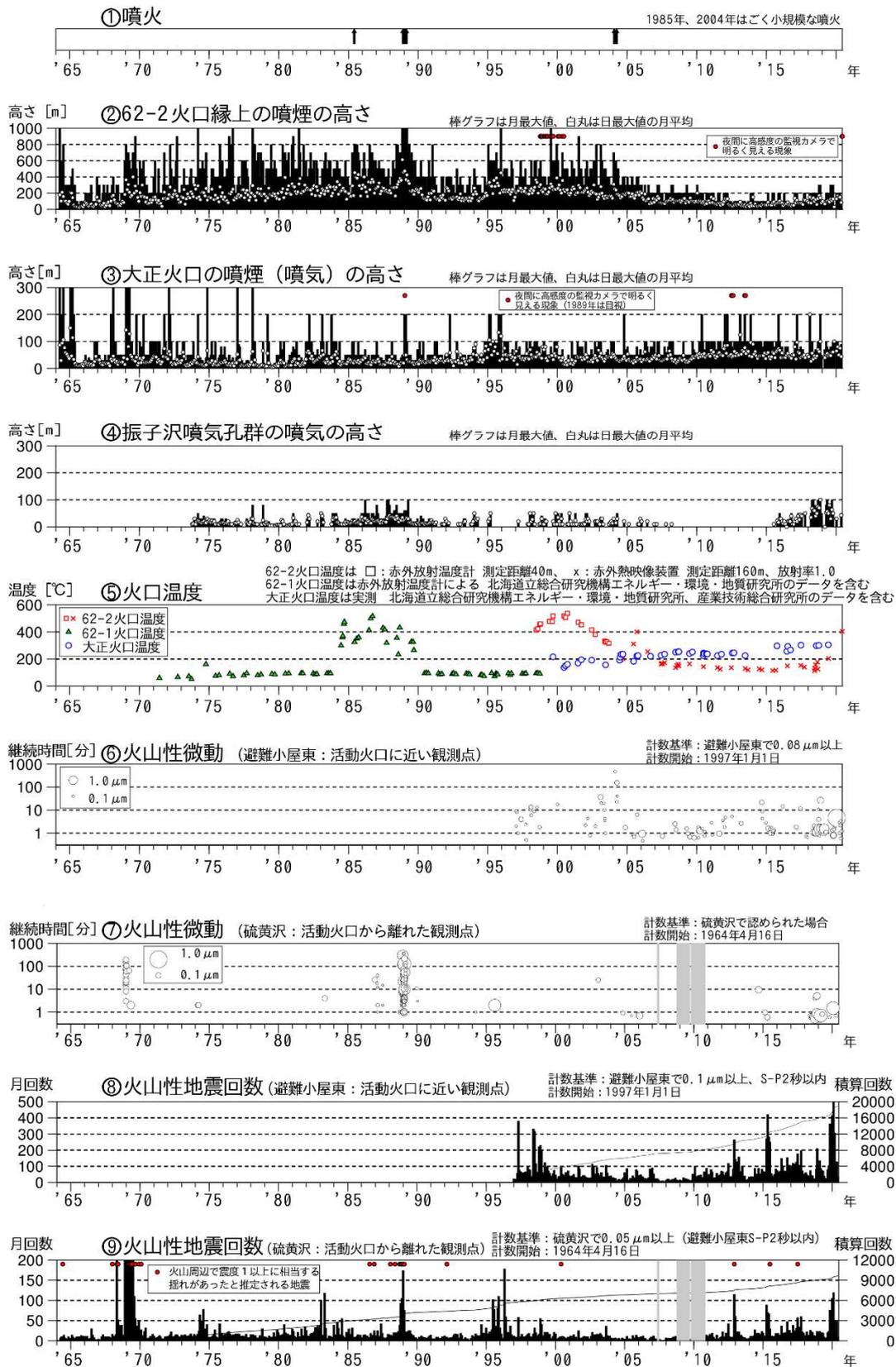


図5 十勝岳 火山活動経過図 (1964年1月～2020年6月14日)

⑦⑨：グラフの灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。

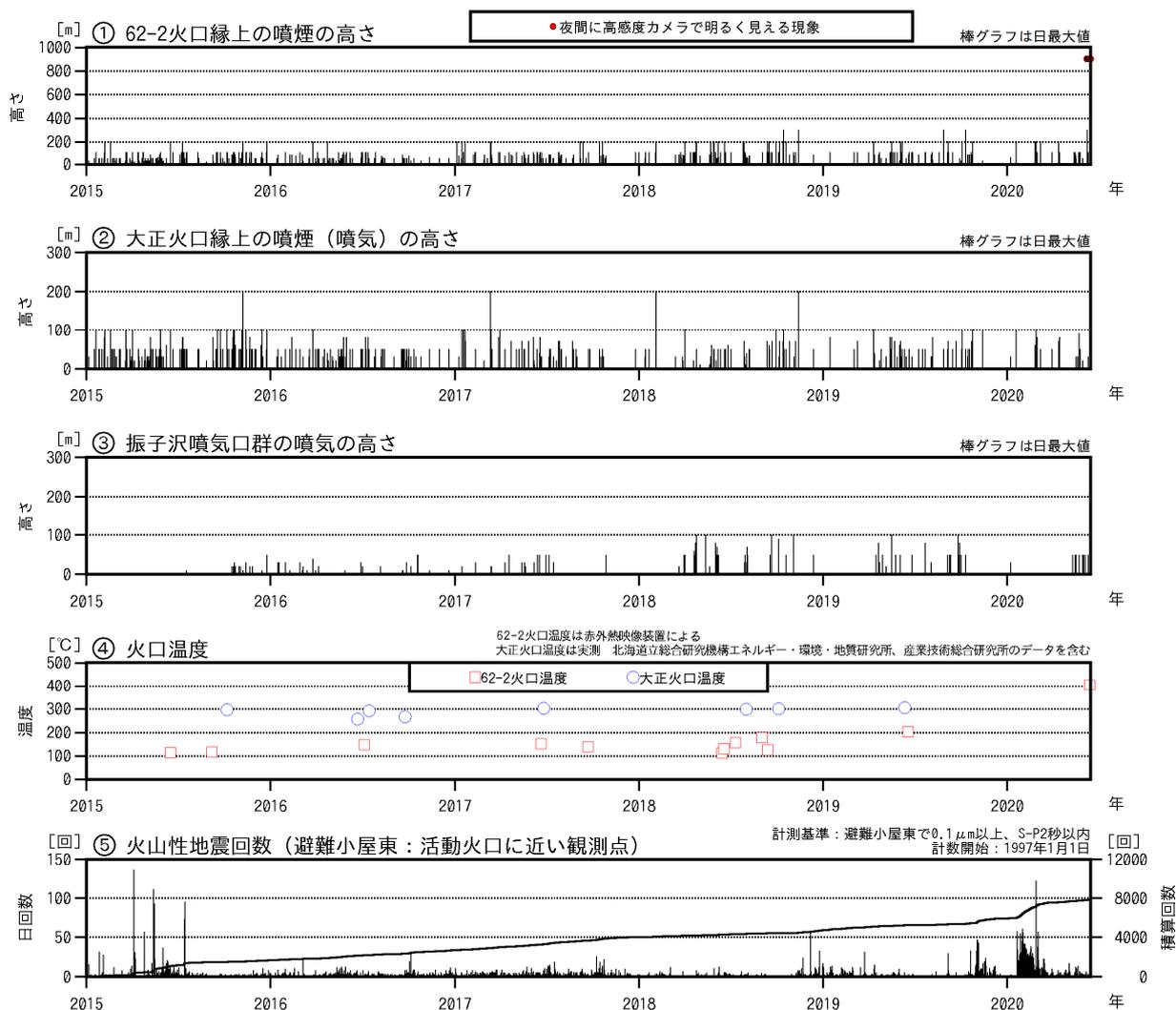


図6 十勝岳 火山活動経過図（2015年1月～2020年6月14日）